

令和5年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

図工

	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○手指を動かすこと等の程度に個人差がある。 ○話の聞き方や取り組む態度に課題がある児童が見られる。2学期以降は版画等、製作の過程を把握し段階を追って活動する題材がある。落ち着いて話を聞き、集中して制作する態度の育成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「こうするとできる」をスモールステップで伝える。道具の扱い方は事前に動画を視聴させ安心感を与える。 ○手順を視覚的に分かりやすく伝えるよう板書や掲示等を工夫する。題材によっては、個人の活動に集中できるように図工室内の環境を整えたり、担任・支援員に事前に相談したりする。 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組んでいるが、継続して根気よくつくりあげる経験の積み重ねが必要である。 ○決まった児童間での交流に偏りがちな児童もいる。つくりながら考え、つくりかえる活動の楽しさを感じたり、認め合う体験を増やしたりしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発問の内容を工夫したり、鑑賞活動を導入で取り入れたりすることによって、児童の活動への意欲を高める。 ○グループの編成方法を各担任に相談する。展覧会での発表や、協働的な造形活動を通して「みんなとだからできた」という達成感を感じさせる。 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○造形活動への興味・関心は高いが、平面作品において、自分の思いや考えを創意工夫して表すことに自信を持って取り組めない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対話型鑑賞を通してひとことからでも自分の思いを表現する活動を取り入れる。自分の見方や感じ方が大切であることを伝え自信をもたせる。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○技術面や進度の差が出がちである。主体的に発想したり、工夫を重ねて表すことに課題が見られる。 ○完成を急ぐあまり、単純な表現に留まり活動を終わってしまう児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が「もっと取り組みたい」と興味を持続する題材の設定や投げかけをする。必要に応じて資料を提示する。何をどのように表現するのか、ねらいや目的を明確にして根気よく伝える。 ○自分の感じ方の幅をもてるような発問や、授業前後のフィードバックを行い、主体的な態度を育成する。 	